

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	阪神タイガース春季キャンプ受入事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-Ⅲ-(2)-ウ	
担当部課名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成24年度～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	阪神タイガース春季キャンプは多くの観光客が本村を訪れる重要な観光資源となっているため、常設防球ネットの改修や仮設の防球ネット及びテントの設置、野球場とサブグラウンドの黒土の搬入を行うなどプロ野球キャンプの受入体制を強化することで、さらなる観光誘客を図る。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,588	51,370	50,525	12,991	14,416
		(b) 予算現額	9,588	51,370	50,525	13,948	14,416
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	957	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	9,588	51,370	50,525	13,948	14,416
	B. 執行済額		9,410	50,297	44,457	13,948	14,107
	うち交付金充当額		7,527	40,237	35,565	11,158	11,285
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.1%	97.9%	88.0%	100.0%	97.9%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。不用額については委託費の入札残や人件費、需用費の残などによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・阪神春季キャンプの受入体制の構築 ・野球場防球ネット、エアアーチ、テント等設置	目標	防球ネット (エアアーチ) テント等設置	防球ネット (エアアーチ) テント等設置	防球ネット (エアアーチ) テント等設置	防球ネット (エアアーチ) テント等設置	
		実績	設置完了	設置完了	設置完了	設置完了	
	・野球場、総合グラウンド黒土搬入	目標	野球場、総合 (グラウンド黒 土搬入)	野球場、総合 (グラウンド黒 土搬入)	野球場、総合 (グラウンド黒 土搬入)	野球場、総合 (グラウンド黒 土搬入)	
		実績	野球場、総合グラ ウンド黒土搬入完 了	野球場、総合グラ ウンド黒土搬入完 了	野球場、総合グラ ウンド黒土搬入完 了	野球場、総合グラ ウンド黒土搬入完 了	
	・キャンプ会場の衛生管理	目標	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )	( 衛生管理 )	
		実績	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施	衛生管理実施	
	・阪神タイガース春季キャンプ会場改善工事	目標	野球場フェンス (野球場トイレ 改善工事)	( 野球場防球 ネット改善工事 )	(                    )	(                    )	
		実績	改善完了	改善完了			
・阪神タイガース春季キャンプ会備品購入	目標	(                    )	( 機械購入 )	(                    )	(                    )		
	実績		購入完了				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>選手及び見学者が安全・快適に練習・見学ができるよう、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、テント等を設置したほか、清掃員や警備スタッフ等を配置し、球場内外の整備を行った。</li> <li>阪神タイガースの合同自主トレ、春季キャンプの環境整備を図る為、野球場・総合グラウンドの黒土入替えを実施した。</li> <li>選手が安心してキャンプに取り組めるよう、衛生品準備やインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策も実施したほか、キャンプ期間中だけでなく、年間を通し調整を行い、球団との関係を築いた。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	阪神春季キャンプ見学者数(人)	目標	(                    )	( 43,000人 )	( 43,000人 )	( 80,000人 )	(                    )
		実績			59,800人	101,800人	93,250人
進捗状況説明	<p>昨年のリーグ成績は前年の優勝から2位となったが、藤川新監督が就任したことにより、目標よりも来場者数が大きく上回った。また、選手及び来場者が安心・安全に練習・見学が行えるようコロナ禍以前より行っていた、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、パワーテント等を設置したほか、清掃員やイベントスタッフを配置し、野球場周辺の環境整備を行った。来場者数は目標を大きく上回り、コロナ禍以前の水準に回復することができた。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤川新監督の就任により、春季キャンプの来場者数は目標を大きく上回り、コロナ禍以前の水準まで回復した。</li> <li>・春季キャンプは本村でもっとも大きな観光資源となっている。今後もキャンプ地としての利用を継続してもらうため、球場整備や選手・ファンの安全確保、交通事故防止等に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策については、選手の健康面を考慮し、今後も新型コロナウイルスやインフルエンザ等、継続的な対策が必要となる。今回のキャンプでは選手のサイン会等のイベントは行われなかったが、今後の開催について球団と調整が必要となる。感染症対策を行いつつ、ファンサービスを実施するなどの観光客の求める受け入れ体制の構築を検討する。</li> <li>・引き続き野球場等の黒土購入、選手・ファンの動線管理、誘導員の配置、臨時駐車場の設置、シャトルバス運行を実施し、安全・快適なキャンプ場整備に努める。</li> </ul>

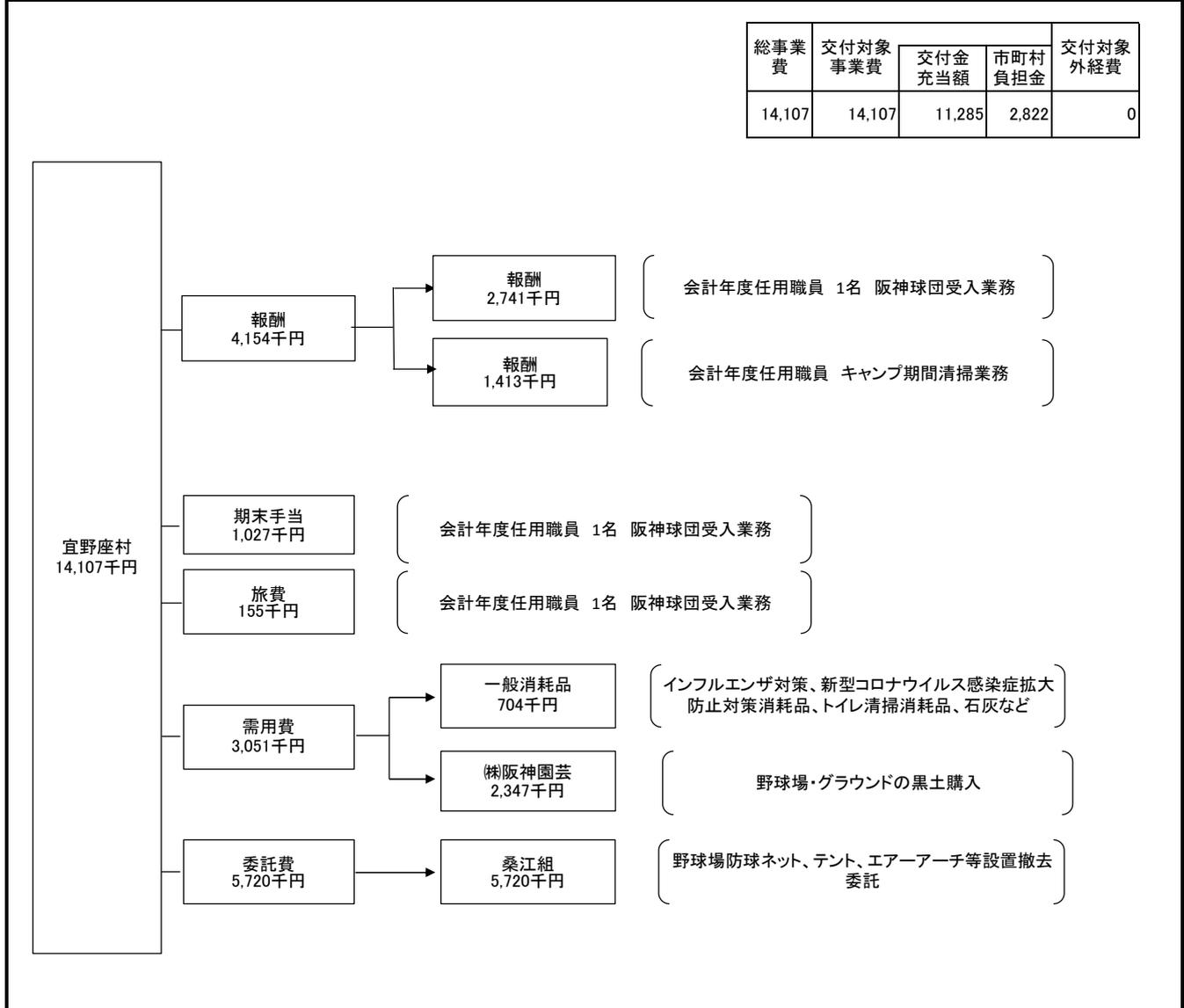
**今後の取り組み方針**

・今後多くの来場者が見込まれるため、防球ネット、歓迎エアアーチ、歓迎のぼり、パワーテント等を設置、清掃員やイベントスタッフを配置等の通常のキャンプ対応に加え、雑踏事故防止の対策や、駐車場の不足問題の解消のため、周辺の臨時駐車場の確保やシャトルバスの運行日数の見直しを検討する。

・今後も新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対策として、手洗いの徹底を呼びかけるほか、必要に応じてトイレや観客席、練習見学場所、手洗い場等に消毒用アルコールを設置する。また、感染症対策を取るよう注意喚起も実施しながら、事前に球団と調整し、安心安全にサイン会やファンサービス等が再開できるよう対策を検討する。また、球団側にも来場者がよりキャンプを楽しめるよう、会場レイアウトの変更等を求めていく。

・今後もキャンプ地利用を継続してもらうため、球場周辺施設整備や選手及びファンが安心安全・快適に利用できるよう受入体制を構築するほか、球団や村観光協会、村商工会と通年で連携を取り、村全体でキャンプ地として盛り上げるよう取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</li> <li>・予算規模については、見積りを徴収して積算しており、適正な規模であった。</li> <li>・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ	
担当部課名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり Ⅲ-3-(3)	
事業内容	村民が質の高い芸術公演に触れる機会の確保及び、村外からの誘客を図るため、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に芸能文化・伝統芸能公演等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	29,988	29,988	24,970	19,994	18,000
		(b)予算現額	25,188	29,988	24,970	19,994	18,000
		(c)増減額(b-a)	▲ 4,800	0	0	0	0
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		25,188	29,988	24,970	19,994	18,000
	B. 執行済額		25,173	29,978	24,970	19,993	17,978
	うち交付金充当額		20,138	23,982	19,976	15,994	14,382
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%
予算の状況の説明		計画していた事業内容はほとんど実施できたため適正であったと考える。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	(がらまんホール公演) 「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」 「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催する。(10回以上)		目標 ( 14回 )	( 11回 )	( 10回 )	( 10回 )	
			実績	14回	13回	11回	14回
	(お出かけ公演) 教育施設、福祉施設、観光施設等で文化事業を行い、文化芸術を通して交流できる芸術普及活動を行う。(4回以上)		目標 ( 4回 )	( 3回 )	( 4回 )	( 4回 )	
			実績	4回	7回	5回	7回
(事業アーカイブ及び映像制作配信) 過去に開催した事業の写真や映像等の動画配信を行う(3項目)		目標 ( 4項目 )	( 3項目 )	( 3項目 )	( 3項目 )		
		実績	4項目	5項目	6項目	4項目	
達成状況説明		・がらまんホール公演については、がらまん音楽コンサート、伝統芸能公演、先進的文化芸術創造事業など、計14回の公演を施した。 ・お出かけ公演については、村内福祉施設民謡コンサート、幼稚園、劇場へのインリーチコンサート、村まつりなど、計7回の活動を実施した。 ・事業アーカイブ及び映像制作配信については、文化講座(2)、映像配信事業(1)、ホームページ維持管理(1)の計4項目を実施した。 ・全ての活動目標(指標)を達成することができた。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	①芸術文化・伝統芸能公演の集客数	目標	( )	( 2,778人 )	( 2,916 )	( 3,061 )	( )
		実績		3,738人	2,849人	3,638人	
	②お出かけ公演対象者数	目標	( )	( 2,893人 )	( 3,037 )	( 3,188 )	( )
		実績		6,575人	6,232人	7,179人	
進捗状況説明		①芸術文化・伝統芸能公演は、目標数値を上回り実施することができた。 ②お出かけ公演については、実施回数が増加し、対象施設の人数も多かったことから、昨年実績を上回り、目標数値を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①今年度は、新型コロナウイルスの影響がほぼなくなったことに加え、昨年度より事業回数も増加し、集客数も伸びた。</p> <p>②お出かけ公演は、昨年に比べ対象者数は増加したものの、訪問先や日時、ジャンルによって事業効果や対象者数に大きな差が生じる。</p>	<p>①対象者数や入場者数が重要な指標である一方で、多様性を確保した芸術・伝統芸能公演を推進することも必要である。多様性を確保することにより、より幅広い層に文化的接点を提供し、地域全体の文化力を高めることができる。</p> <p>②お出かけ公演においては、対象者や実施場所、ジャンルについて、年度ごとに変化を加えることで、多様なニーズに対応し、より効果的な事業運営を目指す。</p>

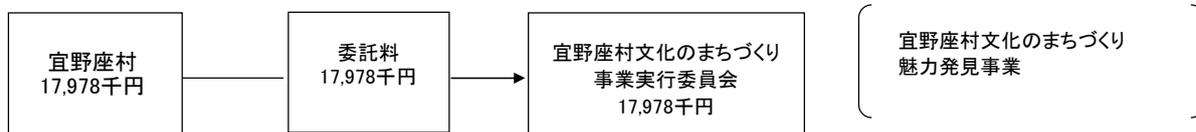
**今後の取り組み方針**

①年度ごとに規模や回数が異なるものの、多様な芸術文化に触れる機会を提供することを目指し、継続性と新規性を考慮した企画を行い、演目や舞台内容を充実させる。

②お出かけ公演に加え、制作した事業アーカイブおよび映像制作・配信事業を積極的に活用し、村内外の多くの人々に文化芸術を届けることで、宜野座村の魅力や文化振興、誘客に寄与する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
17,978	17,978	14,382	3,596	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○多種多様な事業を円滑に進める為に、村内各種委員で構成する委員会と随意契約しており、選定は妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模については、見積りを徴取して積算しており、不用額も事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○用途について額の確定時(完了検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	宜野座村着地型観光誘客推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	観光工商課	事業実施 (予定)年度		平成25年度～令和13年度	観光客受入体制の整備	
事業内容	宜野座村への観光誘客を図り、着地型観光を推進するため、観光誘客プロモーション活動や年間を通したイベントの開催、観光関連人材の育成等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	73,372	66,285	66,867	54,233	54,331
		(b) 予算現額	71,736	65,328	65,420	52,551	53,723
		(c) 増減額(b-a)	▲1,636	▲957	▲1,447	▲1,682	▲608
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		71,736	65,328	65,420	52,551	53,723
	B. 執行済額		71,736	56,924	65,417	52,550	53,723
	うち交付金充当額		57,388	45,538	52,334	42,040	42,978
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	87.1%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初、4月より職員1名を新たに採用する予定だったが5月採用に延期になったことから、人件費の予算額を変更し減額した。その他は滞りなく予算執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光誘客プロモーション活動の実施(関西地域、関東地域、沖縄県内、団体誘致等)	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施なし	実施	実施	実施	
	・観光プログラムの開発事業の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	・観光人材育成事業の実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( )	
		実績	実施	実施	実施なし		
	年間を通したイベントの開催(3回)(村内)	目標	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	
		実績	3回	3回	4回	4回	
外部専門家(アドバイザー)招聘によるSNSなどの活用による情報発信の検証と発信技術の向上を図る。	目標	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )	( 外部専門家事業 )		
	実績	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化に向けた取り組みを実施	情報発信力強化及び商品造成に向けた取組を実施	情報発信力強化に向けた取組を実施		
達成状況説明	昨年に引き続き、ウェルネスツーリズムに特化したパンフレットの作成やウェルネスツーリズムEXPOへの出展を通して、村内事業所と連携したプログラム(健康、ワーケーション)や発信が出来た。その他プロモーションも毎年開催することで来場者もリピーターが増え、宜野座村の認知度が上がってきている。 イベントについても、県外でのイベントを4回開催することができた。毎年開催することで認知度が上がり、リピーターのお客が増え、宜野座村を目的に来場するお客が増え続けている。 また、地域観光従事者と連携し滞在型観光プログラム開発に向けた取組を実施した。 外部専門家事業については、専門家のレクチャーのもとSNSのフォローを増やす企画としてSNSイベントを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	宜野座村の観光入客数(20万人)	目標	( )	( 12.1万人 )	( 20万人 )	( 20万人 )	( )
		実績		20万人	23.3万人	21.7万人	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	今年度も概ね計画通りに事業を実施することができた。今年はプレスリリースを実施することで広告での幅広い発信やプロモーションの展開など、周遊イベントでの活用を実施。観光プログラム開発にも取り組み、宜野座ならではの「人に会える旅」をコンセプトに滞在型ツアー商品を開発した。 観光入客数に関しては、21万人以上と目標を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>今年度も全ての事業を実施することができ、プロモーション活動では県内外で認知度の向上を図ることが出来た。今後も発信に注力し県内外へのプロモーションを図る必要がある。</p> <p>次年度も滞在時間を伸ばし周遊出来るイベントの企画・実施により、来場者や観光客の誘客を目指す。</p> <p>外部専門家アドバイザーから学んだSNSを活用したイベント企画や、プレスリリースの発信方法を今後の事業展開に活用したい。</p>	<p>プロモーションについては、これまで取り組んで来た事を継続しつつ、県内外でプロモーション実施の際はSNSを活用した発信やプレスリリースを行うことで発信の強化を図る。</p> <p>イベント企画についても、これまでも共に取り組んで来た、ステークホルダーとの合意形成を図りながら地域連携を図る。</p> <p>滞在型ツアー商品を造成するだけでなく、モニターツアーを実施し商品のブラッシュアップを図るとともに、情報発信に注力する。</p> <p>外部専門家アドバイザーについても、引き続き情報発信の強化を図り、地域の観光事業所と連携を図る。</p>

**今後の取り組み方針**

今後も有効的なプロモーション事業を計画・実施しつつ、ステークホルダーとの合意形成を得ながら、宜野座の資源を活用して地域観光地づくりを目指す。これまで企画造成してきた滞在型観光プログラム(オプションツアー)に、プラスαし継続的な取組に向けて質を高めると同時に発信することで誘客を促進する。

また、SNSを活用したイベント企画やPRタイムスを活用したプレスリリースを行うことで情報発信に注力し、宜野座村への誘客やさらなる認知度の向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
53,723	53,723	42,978	10,745	0



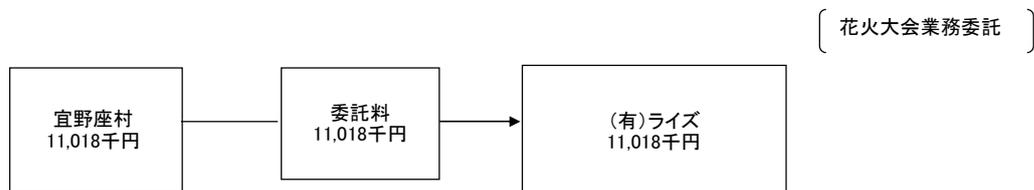
資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者の選定は、本村に特化した観光振興を担う唯一の事業所であることから随意契約にて契約しており、その選定は妥当であったと考える。</p> <p>・予算規模については、見積りを徴取して積算しており、不用額は事業費の5%以内で適正な規模であった。</p> <p>・用途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	観光商工課	事業実施 (予定)年度	平成28～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光産業の振興
事業内容	スポーツが盛んな秋の行楽シーズンに、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公園を中心とした場所で大花火大会を開催し、宜野座村の魅力を発信することにより観光誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		(a) 当初予算額		7,228	7,787	11,218	11,703
	(b) 予算現額		7,228	7,787	11,218	11,703	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	0	7,228	7,787	11,218	11,703	
	B. 執行済額		6,459	7,020	10,841	11,017	
	うち交付金充当額		5,167	5,616	8,673	8,813	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	89.4%	90.2%	96.6%	94.1%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。不用額の686千円については、入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	花火の打上	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施(750発)	実施(1,050発)	実施(1,050発)	実施(1,050発)	
	会場設営	目標	-	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	-	実施	実施	実施	
	ステージイベント(伝統芸能等)	目標	-	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	-	実施(15団体)	実施(18団体)	実施(18団体)	
	PRチラシの作成	目標	-	( 作成 )	( 作成 )	( 作成 )	
		実績	-	作成(40,000枚)	作成(40,000枚)	作成(40,000枚)	
警備員の配置	目標	( 配置 )	( 配置 )	( 配置 )	( 配置 )		
	実績	配置(16名)	配置(10名)	配置(10名)	配置(10名)		
達成状況説明	チラシでの周知や約1,000発の花火を打ち上げることで、目標値の来場者数を達成することに繋がった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
		美ら島花火大会集客者数(15,150人/2日間)	( )	( 8,540人 )	( 14,500人 )	( 15,150人 )	( )
		実績		14,000人	20,010人	16,236人	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	2日間とも天候に恵まれ、目標値を超える来場があり開催を待ち望んでいた様子が伺えた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	会場設営の配置や警備員の配置など、計画から実施まで入念に調整を行い準備した結果、大きな問題なく実施することができた。	契約時期を少し早めPR期間を増やし、県内外からの誘客を図る。
今後の取り組み方針		
県内外における先進的なイベントや祭りの事例や情報を随時取り入れながら、宜野座村まつり実行委員会と連携して、観光誘客及び村の魅力発信ができるよう開催方法を検討していく。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,017	11,017	8,813	2,204	0



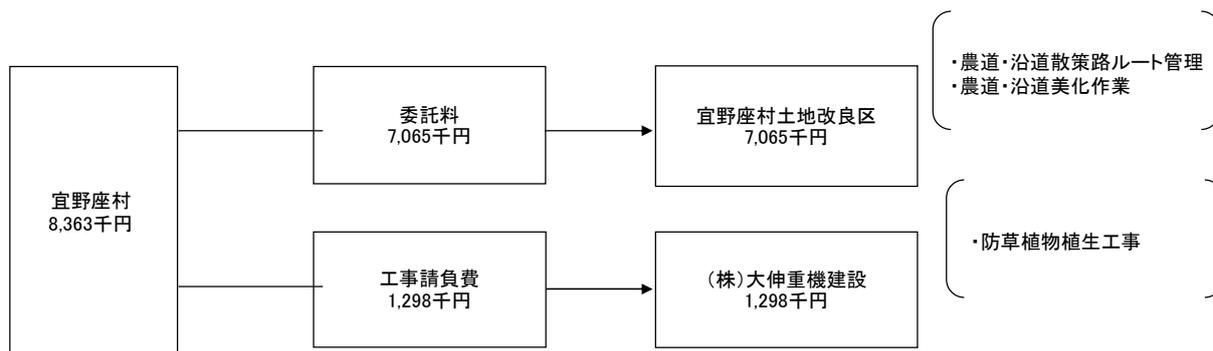
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</li> <li>・予算規模については、見積りを徴取して積算しており、適正な規模であった。</li> <li>・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	農村沿道景観向上事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	魅力的な自然環境観光地を形成するため、リゾート観光客の散策路(農道)の美化に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,222	5,222	5,222	6,533	8,363
		(b) 予算現額	5,222	5,222	5,222	6,533	8,363
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		5,222	5,222	5,222	6,533	8,363
	B. 執行済額		5,222	5,222	5,222	6,520	8,363
	うち交付金充当額		4,177	4,177	4,177	5,216	6,690
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.8%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施したので適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	美化作業員配置3名	目標	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	
		実績	3名	3名	3名	3名	
	事務職員配置 1名	目標	( )	( )	( )	( 1名 )	
		実績				1名	
	雑草対策工事	目標	( )	( )	( )	( 実施 )	
実績					実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通り、美化作業員3名及び事務職員を配置した。</li> <li>雑草対策のため、クワピアマルチシートを張り苗の植付けを行う工事を実施した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	安全で快適な散策ができ、観光地として魅力的な景観であったか(80%以上)を含め、観光客に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	( )
		実績		81%	72%	81%	
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	本事業開始前は年間10件程苦情をいただいていたが、開始後6年間の苦情件数は0件であったことから効果があったと考えられる。また、アンケートを実施した結果、81%の方に沿道の景観が「とてもきれい」との評価をいただき、目標値である80%を上回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・これまで宿泊施設周辺付近の農道・沿道においては雑草等が茂り景観が損なわれていたが、年間をととして草刈り・伐採作業を実施することで観光地の景観形成が図られ、令和6年度も含めて事業開始後の苦情件数は0件であった。</p>	<p>・宿泊施設や観光施設におけるアンケート調査を継続して行う。多くの意見を事業に反映できるように獲得枚数の増を目指す。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・草刈による除草に加えて防草植物(クラビア)による事業効率化を図る。コロナの制限解除により観光客も増加しているため、引き続き魅力的な景観を維持出来るように事業を実施していく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,363	8,363	6,690	1,673	0



資金の流れ、費目 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・工事請負費及び委託業務の支出先については、本事業の目的を達成するため、地方自治法施行令第167条2第1項第1号及び第2号に基づき随意契約を行っており妥当であったと考える。</p> <p>・予算規模については、見積りを徴取して積算しており、適正な規模であった。</p> <p>・用途については、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	小学校学力向上対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける学校教育の推進		
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を小学校に配置し、児童の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	25,089	28,780	28,780	28,780	29,443
		(b) 予算現額	17,088	28,780	27,554	28,339	25,950
		(c) 増減額(b-a)	▲ 8,001	0	▲ 1,226	▲ 441	▲ 3,493
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	17,088	28,780	27,554	28,339	25,950
		B. 執行済額	14662	26466	25,207	25,732	23,981
		うち交付金充当額	11729	21172	20,165	20,586	18,100
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	85.8%	92.0%	91.5%	90.8%	92.4%
予算の状況の説明	8名の学習支援員の内、4月(3名)、5~8月(1名)に公募者がおらず採用ができなかったため、そして1月に退職者が出て1~2月(1名)の公募者がおらず採用ができなかったため不用額が生じた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R6活動目標(指標)	達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援員配置数 松田小学校2名 宜野座小学校4名 漢那小学校2名	目標	松田小2名 (宜野座小4名) 漢那小2名	松田小2名 (宜野座小4名) 漢那小2名	松田小2名 (宜野座小4名) 漢那小2名	松田小2名 (宜野座4名) 漢那小2名	
		実績	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	松田小2名 宜野座小4名 漢那小2名	
	【参考指標】 支援児童数	目標	( 495 名 )	( 493 名 )	( 510 名 )	( 498 名 )	
		実績	509 名	505 名	512 名	502 名	
達成状況説明	学習支援8名配置し、小学校児童502名に対し、教諭と連携をとりながら学習支援を行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
			(      )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	(      )
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上)・小学校5年・6年(算数)	目標	(      )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	(      )
		実績	/	5年算数(-17.4) 6年算数(-7.6)	5年算数(-7.7) 6年算数(+0.7)	5年算数(-0.4) 6年算数(-3.0)	/
	【参考指標】	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績	/	/	/	/	/
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果、小学校5年・6年生の算数において県平均を上回ることができなかった。						

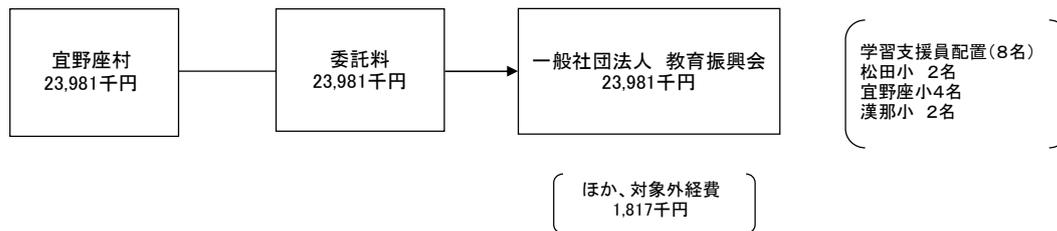
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。(手立てが必要)</li> <li>対面による児童に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が今後とも継続して必要である。</li> <li>放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、5・6年生ともに時間をかけて取り組む記述式の問題に無回答率が高く、結果的にいずれも県平均を上回ることができなかった。</li> <li>これまでの学習の積み残しが多いため、少しずつ改善はしているが、まだまだ結果につながってはいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別支援などを行い、基礎的・基本的な学力の定着を図り学力向上に結び付ける。</li> <li>放課後補習や長期休業中の学習支援の場を設けるなど学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、学力の基礎・基本の定着を図る。</li> <li>教師及び支援員の情報交換を密に行い、授業改善などに取り組む。</li> <li>漢字検定や数学検定など各種検定試験への取組を推奨し、学習意欲の向上や達成感につなげる。</li> <li>学び残しが改善されるよう、引き続き、授業改善や補習指導等を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 放課後補習や長期休業中の学習支援を設けるなど強化することで、各学年で身につけるべき学習内容の基礎・基本事項を定着させるよう取り組む。
- 定期的に学習支援員に対する研修を行い、各学校における取組などを情報共有することで指導員のスキル向上を図る。
- 定期的に担当教師との情報交換を行い授業改善を図りながら個別指導や補習授業を通じて、学力向上を図る。
- 漢字検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、学習意欲向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。
- 無回答率の高い問題の分析を行い、個々の課題把握に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
25,798	23,981	18,100	5,881	1,817



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をポロポーザル方式により選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いは出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	中学校学力向上対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける学校教育の推進		
事業内容	学力の向上を図るため、教師と連携をとりながら授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を中学校に配置し、生徒の学力に応じた個々の学習指導を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		(a)当初予算額	15,681	17,987	17,987	17,987	18,402
	(b)予算現額	12,681	17,987	15,768	16,934	15,680	
	(c)増減額(b-a)	▲3,000	0	▲2,219	▲1,053	▲2,722	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	12,681	17,987	15,768	16,934	15,680	
	B.執行済額	11,738	15,447	13,407	15,254	14,395	
	うち交付金充当額	9,390	12,357	10,726	12,203	11,516	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	92.6%	85.9%	85.0%	90.1%	91.8%	
予算の状況の説明	学習支援員の無給休暇取得等により、不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援員配置数等 宜野座中学校 5名 (英語、数学、理科、国語・社会)	目標	( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	
		実績	5名	5名	5名	5名	
	【参考指標】 支援生徒数	目標	( 232名 )	( 244名 )	( 249名 )	( 264名 )	
実績		241名	246名	253名	263名		
達成状況説明	学習支援を5名配置し、中学校生徒263名に対し、教諭と連携をとりながら学習支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、平均正答率を県平均以上(差0ポイント以上)・中学校2年(国語、数学、英語)	目標	( )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( 県平均以上 )	( )
		実績	/	中2国語(-4.6) 中2数学(-6.0) 中2英語(+0.7)	中2国語(-4.8) 中2数学(-10.0) 中2英語(-8.4)	中2国語(-8.3) 中2数学(-1.8) 中2英語(-7.5)	/
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	/	/	/	/	/
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査の結果、中学校2年生国語、数学、英語において県平均を上回ることができなかった。						

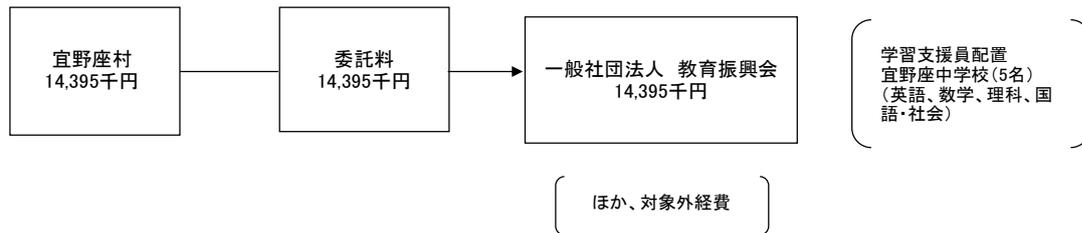
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全体の支援内容の強化を図る必要がある。(手立てが必要)</li> <li>対面による生徒に寄り添ったきめ細かな学習支援を行う機会が今後とも継続して必要である。</li> <li>平日や定期テスト前だけでなく、放課後の補習や長期休業中の講座を行い対応したが、時間をかけて取り組む記述式の問題に無回答率が高く、結果的に県平均を上回ることができなかった。</li> <li>県平均を上回ることができなかった理由として、これまでの学習の積み残しが多いため、少しずつ改善はしているが、まだまだ結果につながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県学力到達度調査結果の分析を行い課題等を把握し、補習授業や個別の学習支援などを行うことで、基礎学力の定着を図り学力向上に結び付ける。</li> <li>学習内容の定着に落ち込みのある単元に対する補習や学習支援を重点的に行う必要がある。</li> <li>放課後補習や長期休業(サマースクール)の学習支援を強化することで、学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>教科担任と課題を共有しながら、ICT機器等を活用し、個に応じた課題の解決を行うなど、生徒の学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る。</li> <li>漢字検定や数学検定、英語検定など各種検定試験への取組を推奨し、放課後等の補習で試験対策を行い、資格試験を通じて合格をめざし、チャレンジすることで意欲の向上につなげる。</li> <li>学び残しが改善されるよう、引き続き、授業改善や補習指導等を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・県学力到達度調査などの諸調査分析から基礎・基本事項の定着状況を把握し、個別指導や補習授業など個に応じた指導を工夫するなどして基礎基本の向上を図る。  
 ・授業中の学習支援や放課後の補習などについては、個の課題を明確にし事前に手立てを確認し、放課後補習や長期休業の学習支援(サマースクール)を実施することで、自らの課題を自覚させ、学力の基礎・基本の理解とその定着を図る。  
 ・漢字・数学・英語検定等の各種検定試験への資格取得を推奨し、多様な学ぶ機会を通じ学習意欲の向上や達成感を醸成させ、学力向上に繋げる。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
15,377	14,395	11,516	2,879	982



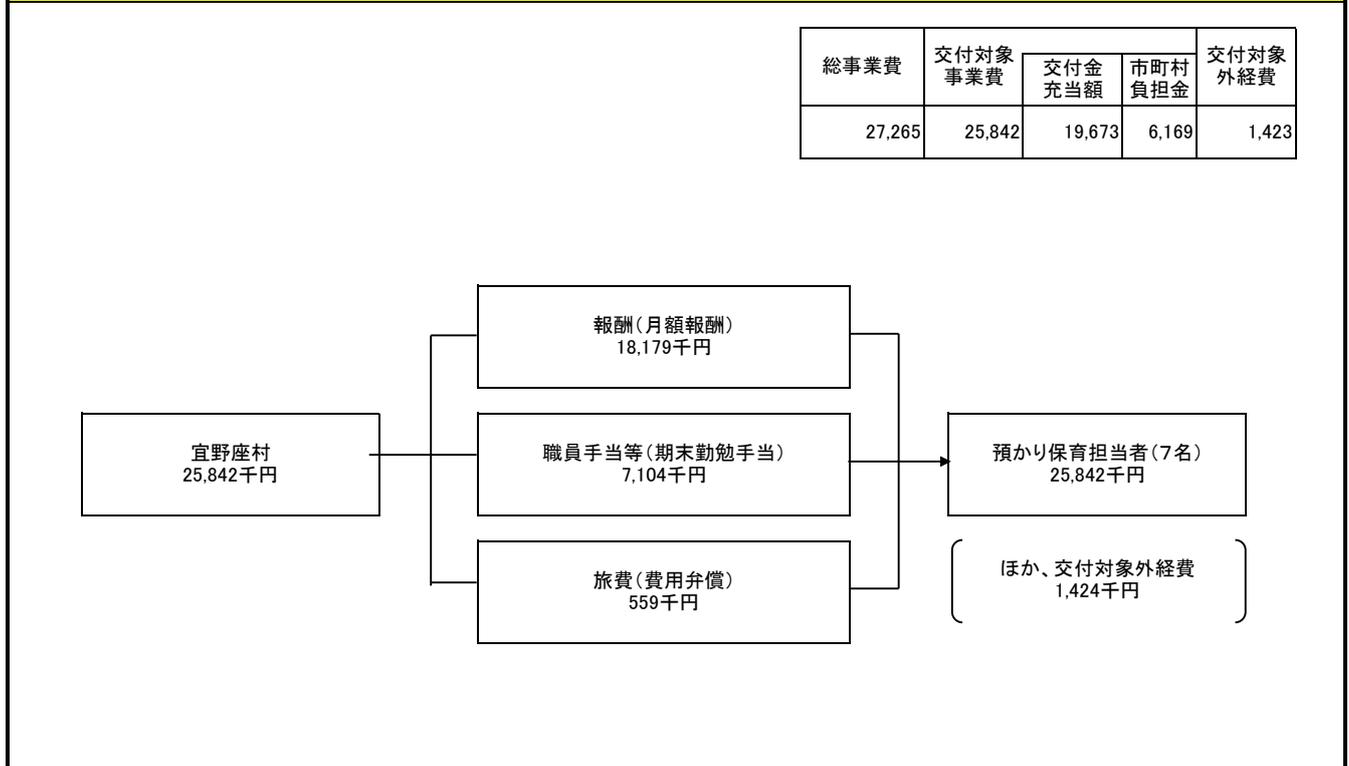
資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者をポロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、人件費及び管理費等を考慮し判断した結果、適正であると考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置しているため、目的に即し、必要だと判断した。委託料の支払いは出勤簿等を確認の上行っている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	幼稚園預かり保育事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-ア		
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	誰もが安心して子育てができる環境づくり		
事業内容	保護者が在園している幼稚園へ教育時間終了後も園児を預けることで、安心・安全な環境下で預かり保育を利用することで、育児における負担感の軽減も図ることができるため、私立幼稚園において預かり保育を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,233	15,108	17,024	20,764	25,726
		(b) 予算現額	11,942	15,108	17,839	19,331	27,433
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,291	0	815	▲ 1,433	1,707
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	11,942	15,108	17,839	19,331	27,433
	B. 執行済額		11,942	13,076	16,297	17,985	25,842
	うち交付金充当額		9,553	10,460	13,038	14,388	19,673
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	86.6%	91.4%	93.0%	94.2%
予算の状況の説明		・会計年度任用職員の報酬改定があり、2月に給与及び12月賞与の遡及が行われたため、当初予算より1,707千円の増額となったが、精査したところ、1,423千円を交付対象外としたこと等から、94.2%の執行率となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	目標	預かり保育担当職員配置数 ・松田幼稚園 2名 ・宜野座幼稚園 4名 ・漢那幼稚園 2名	松田幼 2名 ( 宜野座幼 2名 ) 漢那幼 2名	松田幼 2名 ( 宜野座幼 3名 ) 漢那幼 2名	松田幼 2名 ( 宜野座幼 4名 ) 漢那幼 2名	松田幼 2名 ( 宜野座幼 4名 ) 漢那幼 2名	
実績		松田幼 2名 宜野座幼 2名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名	松田幼 2名 宜野座幼 3名 漢那幼 2名		
達成状況説明	・4月～12月は預かり保育担当者8名を雇用することができ、松田幼稚園2名、宜野座幼稚園4名、漢那幼稚園2名を配置した。 ・12月に1名、1月に1名の合計2名が退職となったため職員を公募した。2月に1名採用することができたが、諸事情により試用期間満了で不採用となった。3月に1名採用することができたため、最終配置数は松田幼稚園及び漢那幼稚園に2名ずつ、宜野座幼稚園に3名の職員を配置することができた。 ・担当者を7名雇用できたことで園児の安全確保や保育サービスの充実につながり、預かり保育を希望する67世帯全員を受け入れることができたため、受入率100%を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	目標	対象となる園児の保護者へアンケートを行い、「安心安全に子供を預けることができ、育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%)」を含め事業の在り方を検証する。	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
	実績			100%	100%	100%	
進捗状況説明	・対象となる園児の保護者に対してアンケートを実施したところ、「安心・安全に子どもを預けることができ、育児の負担感が軽減された」と回答した世帯の割合は100%となり目標を達成した。 ・通園する園児の世帯の内、約93%が共働き家庭や産前・産後・育児休暇を取得中、家族の介護等により午後の預かり保育が必要な世帯となっているため、担当者7名を配置できたことで保護者への午後の預け先を提供でき、多様化する子育て世帯の保育ニーズに応えることができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各園に預かり保育担当者を配置できたことで、保護者と園児に対して柔軟な対応や園児の安全確保が可能となり、保護者の満足度100%に繋がった。</li> <li>引き続き園務支援システムを活用し、アプリを通して保護者との連携がスムーズに行われるようになったことで、預かり保育に対する安心感につながった。</li> <li>前年度と同様に幼児教育に関する研修を1学期に行ったことで、担当者の視点や理解に一定の水準が生まれ、園毎の差異があっても全ての園で同水準のサービスを提供することができた。</li> <li>園毎に利用者数や地域性の差異があるが、どの園も安心・安全な環境下で実態に応じた柔軟な保育を実施することができた。</li> <li>「不適切な保育」について午前中の職員と合同の研修を行い、日頃の保育の振り返りや今後の保育について各職員で共有する場を設けることができた。</li> <li>園務支援システムに含まれている「保育者向け研修動画」を積極的に活用し、預かり保育担当者が抱える保育への不安や遊びの引き出しに関する研修を気軽に受講することができ、負担や不安の軽減に繋がった。</li> <li>日誌やおやつ表、園児の出席簿等の提出物について、年度の初めに入力方法や考え方の研修会を行った。前年度と同様、必要なデータは全てExcelとWordで管理し、数式を入れたデータや統一様式を活用したため提出物の誤りが減少した。また令和6年度より日誌の入力方法(1日の保育リスト化や入力箇所の制限等)を統一したため、必要な情報のみ記載され預かり保育担当者の事務軽減及び平準化に繋がった。</li> <li>家庭の事業や本人の特性により、配慮が必要と思われる園児が複数いるため預かり保育担当者が対応に苦慮している様子が見られる。</li> <li>引き続き教育時間の職員と連携し、園児の個別対応や今後の保育への取り組み、事故防止や不適切な保育に対して職員同志で情報共有を行う姿勢が見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各園の実態に応じた効果的なサービスを提供するため、専門家を招聘した研修や研修動画を積極的に活用し、研修で得た知識をインプット及びアウトプットできる環境を整える。また、グループワーク等で情報交換の場を設け、各職員が抱える不安や疑問を相談しやすい環境づくり(心理的安全性が高い場所や環境の提供)を設定する必要がある。</li> <li>園毎に利用者数や地域性の差異があるため、引き続き実態に応じた柔軟なサービスを提供し、保護者の満足度に繋げる。</li> <li>引き続き、配慮が必要な園児を観察し、スムーズな就学に向けた職員間の連携を図る。</li> <li>家庭の事情や本人の特性により配慮が必要と思われる園児が複数いるため、教育課程の時間の職員と連携し、保護者と園児に対して慎重且つ丁寧な対応を心掛ける必要がある。</li> <li>教育課程の時間に勤務する職員と更なる連携を図る。</li> <li>園務支援システムの活用を行うため、ICTスキルの向上や個人情報保護に関する研修を実施し、学びの場を提供する必要がある。</li> <li>引き続き、教育時間の保育者と合同の「不適切な保育に関する研修」を実施し、日頃の保育への振り返りと共有の場を提供する。</li> <li>現在行っている事務作業をさらに見直し、事務作業の効率化を図る。</li> <li>様々な方法で職員を公募し、書類選考及び面接を経て採用したが、採用後に報告されていない持病等が発覚し試用期間後に不採用となるなど、職員不足の期間が発生した。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>各園の実態に応じた効果的なサービスを提供するため、引き続き専門家を招聘した研修や動画研修を実施する。配慮が必要と思われる園児との関わり方や、他職員との連携に必要な教育課程の基礎知識、不適切保育、ICTの活用に関する研修について取り組む。</li> <li>充実したサービスが提供できるよう、引き続き担当者の困り感や日頃の保育について「共有できる場」を定期的に開催する。</li> <li>配慮が必要と思われる園児に対し、園児の特性や家庭環境、保護者の困り感等を職員間で常に共有することで、園児がスムーズに就学できるよう連携体制を強化する。</li> <li>更なる事務作業の効率化を図るため、提出物の精査や簡略化を実施し、園務支援システムやICT機器の取り扱いに関する研修を実施する。</li> <li>引き続き公募方法等を模索し、業務遂行が可能な職員の確保に努める。また、現在雇用している職員のスキルアップと働きやすい環境づくりに取り組む。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



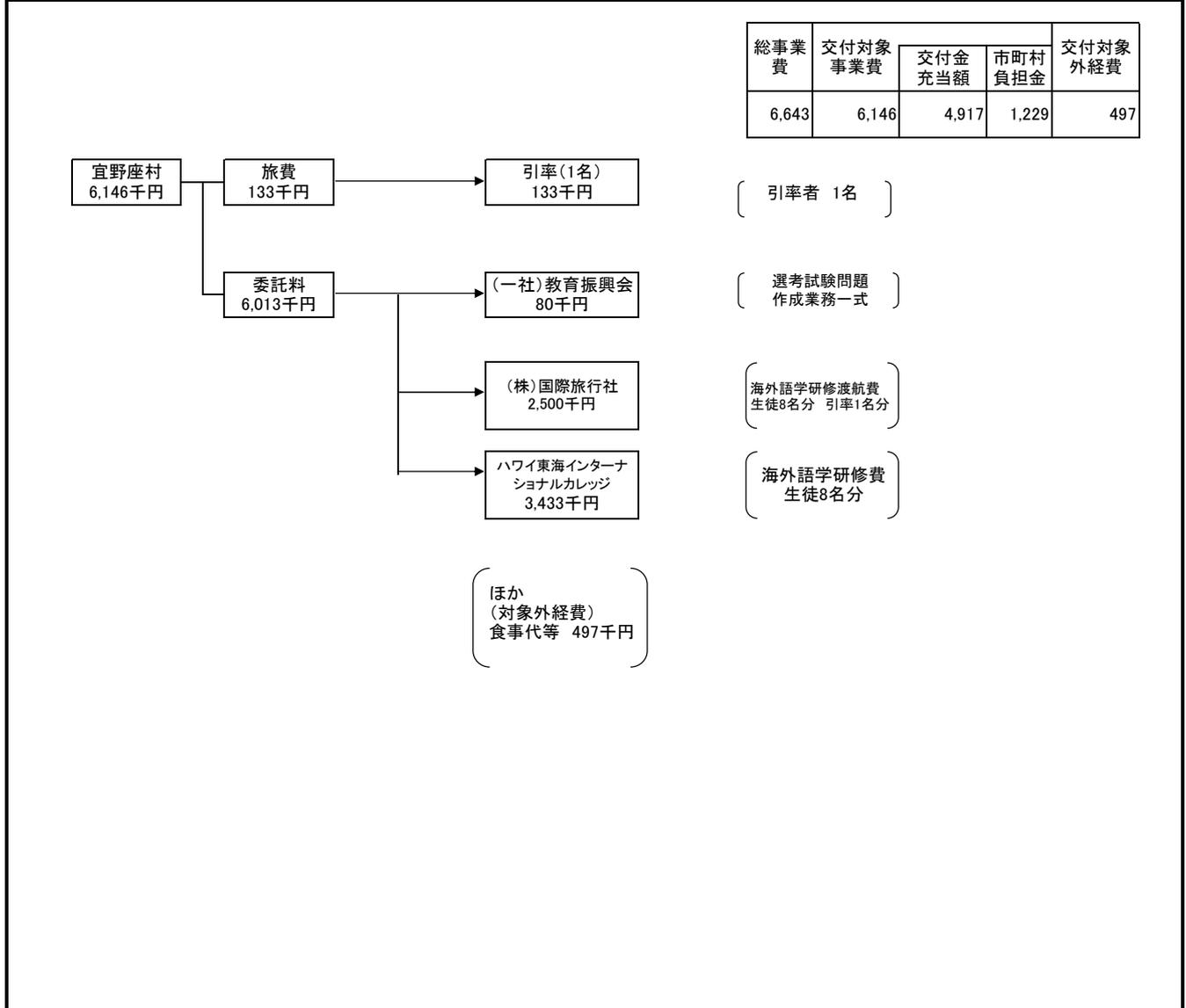
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○担当者の雇用については、地方自治法第22条の2第1項第1号に基づいており、雇用は妥当である。
○	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○担当者の配置数については、宜野座村立幼稚園預かり保育に関する規則に基づき積算しており、適切な規模である。
—	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、預かり保育に要するものであり、必要な物に限定されている。
○	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④		宜野座村ジュニア海外語学研修派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進  Ⅲ-3-(1)	
事業内容	海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材を育成するため、夏休み期間中に村内の中・高校生8名を英語圏へ派遣する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R5年度	R6年度	
	予算の 状況	(a) 当初予算額	4,797	4,505	4,645	10,200	7,339	
		(b) 予算現額	4,105	3,813	4,645	6,959	6,159	
		(c) 増減額(b-a)	▲692	▲692	0	▲3,241	▲1,180	
		(d) 繰越額						
		A. 計(b+d)	4,105	3,813	4,645	6,959	6,159	
	B. 執行済額			3,871	3,812	5,720	6,146	
	うち交付金充当額			3,096	3,050	4,576	4,917	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		0.0%	101.5%	82.1%	82.2%	99.8%	
予算の状況の説明		研修参加の為替レート変動や、旅費委託料により不用が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R5年度	R6年度		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高校生8名を英語圏へ派遣</li> <li>・研修先:アメリカ合衆国(ハワイ州)</li> <li>・内容:現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流など</li> <li>・ホームステイ4泊、大学寮12泊</li> </ul>		目標	( 6名 )	( 6名 )	( 8名 )	( 8名 )	
			実績	6名	6名	8名	8名	
			目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
			実績					
達成状況説明	令和6年7月22日から8月9日の19日間(大学寮13泊、ホームステイ4泊、ホテル1泊)中・高校生8名をアメリカ合衆国ハワイ州へ派遣し、現地大学での英会話授業、歴史文化学習、村人会との交流を行った。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	帰国後、保護者へアンケートを実施し、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を中心に、本事業のあり方を検証する。また、研修生OBへ追跡調査としてネットアンケートを実施し、本事業の在り方の検証を行う。		目標	(      )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(      )
			実績		80%	88%	100%	
	【参考指標】		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
			実績					
	進捗状況説明	生徒の帰国後、保護者へ生徒の英語学習への意欲や国際的な視野が広がったかについてのアンケートを実施したところ、全ての保護者が本事業の成果を実感し、肯定的な回答を得ることができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく英語を話そうとするあまり、文法等を気にしてコミュニケーションが滞ることがあった。</li> <li>・現在の宜野座村についてうまく説明することができない場面があった。</li> <li>・研修を受けた生徒たちが、英語学習への意欲や広い視野で物事を捉えられる人材になっているか確認する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話への苦手意識を克服するため、現在行っている英会話教室に加え、日常会話についても学習する。</li> <li>・事前にハワイの歴史を学び宜野座村の歴史についても学ぶ必要がある。</li> <li>・過去に当該研修に参加したOBへ、事後アンケートを実施する。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修先での日常会話に使う英語も学習に取り入れ、使用頻度の高い英会話教室(3回)を渡航前に開催する。日常会話に使う英語も学習に入れていく。生徒及び引率者、生徒同士の信頼関係を構築する場とするため、英会話教室は引率含め全員参加する。</li> <li>・研修先の具体的な過ごし方や現地の様子を知るために、事前学習を実施し、OBの話や、現地の村人会とのWEB会議を開催する。宜野座村の歴史や現在の状況についても学習する。</li> <li>・過去に研修に参加した生徒へアンケートを実施し、本事業が英語学習への意欲と人材育成にどう影響したのか事後検証を実施する。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



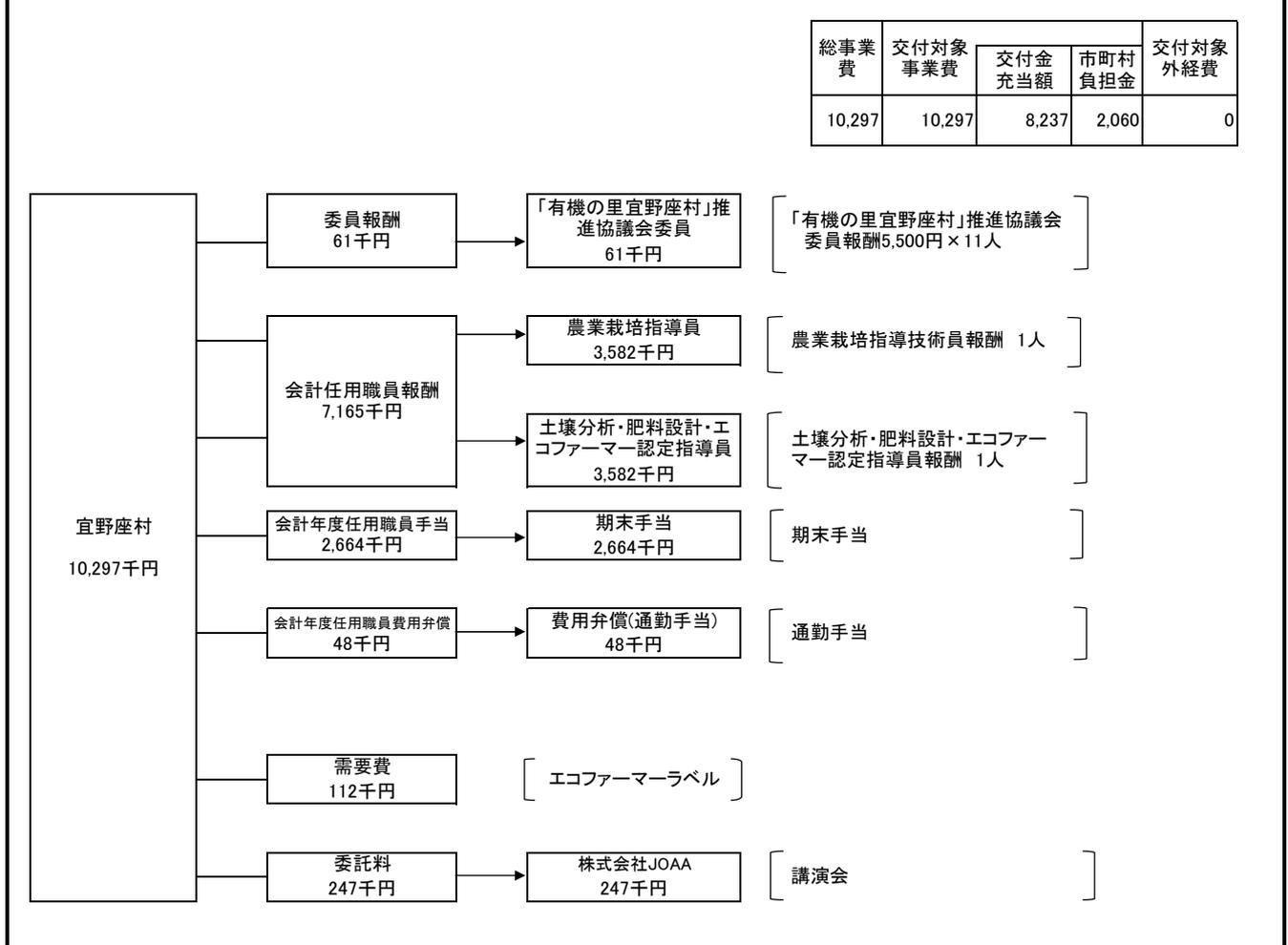
資金の流し、点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、点検項目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○旅費は見積入札を実施し、最低価格業者と契約。研修先は実績と研修生の学習と安全を考慮し適正に選定した。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模は業者見積りを三社から徴取して設定したため、適正であったと判断する。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者も費用の一部を負担しており、私的な費用についても受益者の負担としたため妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	有機の里宜野座村確立事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化		
事業内容	有機の里宜野座村を目指し、沖縄県環境保全型農業推進協議会の認証を受けたエコファーマーの増加並びにエコ農産物の販売量の拡大を図るため、減農薬や、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,361	13,249	8,942	8,942	10,363
		(b) 予算現額	12,260	13,249	7,153	8,587	10,363
		(c) 増減額(b-a)	▲101	0	▲1,789	▲355	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		12,260	13,249	7,153	8,587	10,363
	B. 執行済額		12,260	13,053	8,602	8,587	10,297
	うち交付金充当額		9,808	10,442	6,881	6,869	8,237
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.5%	120.3%	100.0%	99.4%
予算の状況の説明		概ね計画どおりに事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	①栽培指導回数(480回)		目標 ( 480回 116トン )				
	②生産販売目標(116t)		実績 581回 65トン	594回 66.4トン	599回 57.6トン	599回 32.0トン	
	【参考指標】 減農薬、減化学肥料による環境保全型農業を推進する。詳細内容は以下の通り。 ・有機の里宜野座村推進協議会 ・アドバイザーの招聘 ・専門技術員の配置 ○農業栽培指導員1名 ○土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員・エコ販売袋・シール等の購入1名		目標 ( 協議会・部会開催アドバイザー招聘 専門技術員配置 消耗品購入 )				
達成状況説明		・農業栽培指導技術員により、農家に対し栽培指導(土づくり、害虫防除方法、台風対策等)を実施し安定した農産物の生産につなげた。 ・土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員により、エコファーマー認定取得のための技術指導や認定申請書作成の支援を行った。 ・農業栽培指導技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導回数は目標480回に対して、599回の指導を行うことが出来た。しかし、生産販売については、高齢化による離農や出荷先の要望に応えられないことなどがあり、販売目標の116トンを下回る32.0トンという結果となった。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	エコファーマーの認定者数		目標 ( )	( 3名 )	( 3名 )	( 3名 )	( )
			実績	0名	0名	3名	
	エコ農産物販売目標		目標 ( )	( 116トン )	( 116トン )	( 116トン )	( )
			実績	66.4トン	57.6トン	32.0トン	
進捗状況説明		・新規のエコファーマーの認定者は3名であり、目標の3名を達成することができた。 ・エコ農産物販売目標については高齢化による離農や出荷先の要望に応えられない等もあり、32.0トンで目標を下回った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(エコファーマーの認定者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコファーマー認証について3人の新規認定取得を目標とし、認定希望者や新規就農者等に認定取得の呼びかけをし、3名の目標を達成できた。</li> <li>農作物の収量の確保(収入増)ということで化学肥料に頼りがちな農家がいる。</li> </ul> <p>(エコ農産物販売量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年は天候、連作障害等畑のコンディション不足が重なり農産物販売量は32.0トンと達成率にして約27.6%と目標数値を下回っている。また、高齢化等による離農などの要因から、販売量が縮小傾向にあるため、体制強化等の取組が必要である。</li> </ul>	<p>(エコファーマーの認定者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エコファーマー認定者数は令和3年度までに30名を目標としていたが、平成24年度から令和3年度までの実績は41名となっており、目標を達成している。しかし高齢化が進んでいるため継続して認定取得者を確保していきたい。</li> <li>生産者に説明をして安心安全な宜野座ブランドという付加価値の構築をしていきたい。</li> <li>次年度は収量を増やすため有機農法の土づくりの講演会を計画する。</li> </ul> <p>(エコ農産物販売量)</p> <p>栽培指導員の指導の元、連作障害等の課題は克服しつつある。また、販売市場の新規開拓、新規就農者の取り組みにより、増収が見込まれていることから今後は販売量に関して回復が見込まれている。</p>

今後の取り組み方針	
(エコファーマーの認定者数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>村の特産品加工直売センターと連携し、直売センター内にてエコファーマー専用のブースを設け他農家との差別化を図り、生産農家にエコファーマー認証取得のメリットを周知し、認定取得希望者を募り栽培指導員と連携し、栽培指導と認定手続きの支援を行うことで認定取得につなげる。</li> </ul>
(エコ農産物販売量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>作物の種類については、取引先より需要のある作物の情報を得たうえで、試験的な栽培を行いながら、栽培環境が適していると判断した場合に生産拡大を行っていく。また、需要も踏まえ天候等環境要因の影響を受けにくい夏野菜の栽培を継続・検証しながら天候の影響が小さくなるよう、取り扱い品目を増やして安定的な販売量の確保に取り組む。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○協議会委員の選定については、農業関係機関の代表や地域の代表、行政機関の代表など多方面からの意見を集約できるよう選定しており、会計任用職員についても、営農指導の経験豊富な者・農業関連の専門的知識を有する者・販路開拓の経験を有するものを選定していることから妥当であったと考える。エコファーマーラベル製作については見積を徴取し最低見積業者に発注しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委員報酬・会計任用職員報酬・農業経営アドバイザーの報酬費の金額については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき積算しており、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	観光景観向上対策事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進		
事業内容	観光地の景観向上を図る。村の観光ルート等に不法投棄が多く、景観が損なわれているため、パトロールや不法投棄物の撤去を実施。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
		(a) 当初予算額	4,697	4,987	2,719	2,761	3,321
	(b) 予算現額	4,650	4,987	2,721	2,922	3,682	
	(c) 増減額(b-a)	▲47	0	2	161	361	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	4,650	4,987	2,721	2,922	3,682	
	B. 執行済額	4,650	4,985	2,721	2,922	3,661	
	うち交付金充当額	3,719	3,987	2,176	2,337	2,928	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%	
予算の状況の説明	当初予定した事業内容を計画通り実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	監視・作業員配置1名 ・監視カメラによる監視 ・観光ルートのパトロール ・放置された不法投棄物の撤去、解体 ・不法投棄防止看板の設置	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
		実績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ゴミ解体実施 不法投棄防止看板の設置	
達成状況説明	監視・作業員配置1名を配置し、これまで不法投棄のあった場所の監視カメラによる監視、不法投棄防止看板の設置、観光ルートのパトロール、放置された不法投棄物の撤去を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	・観光地における不法投棄0件/年	目標	(      )	( 10件/年 )	( 0件/年 )	( 0件/年 )	(      )
		実績	/	0件/年	0件/年	0件/年	/
	【参考指標】 ・観光地ルートの景観向上(観光客から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。) : 満足度%	目標	(      )	( 70% )	( 70% )	( 70% )	(      )
		実績	/	87%	76%	76%	/
進捗状況説明	観光地における不法投棄件数は1年間で0件であり、目標値を達成した。また、達成状況の客観的確認として、観光施設でのアンケート調査を実施し、目標を達成した。						

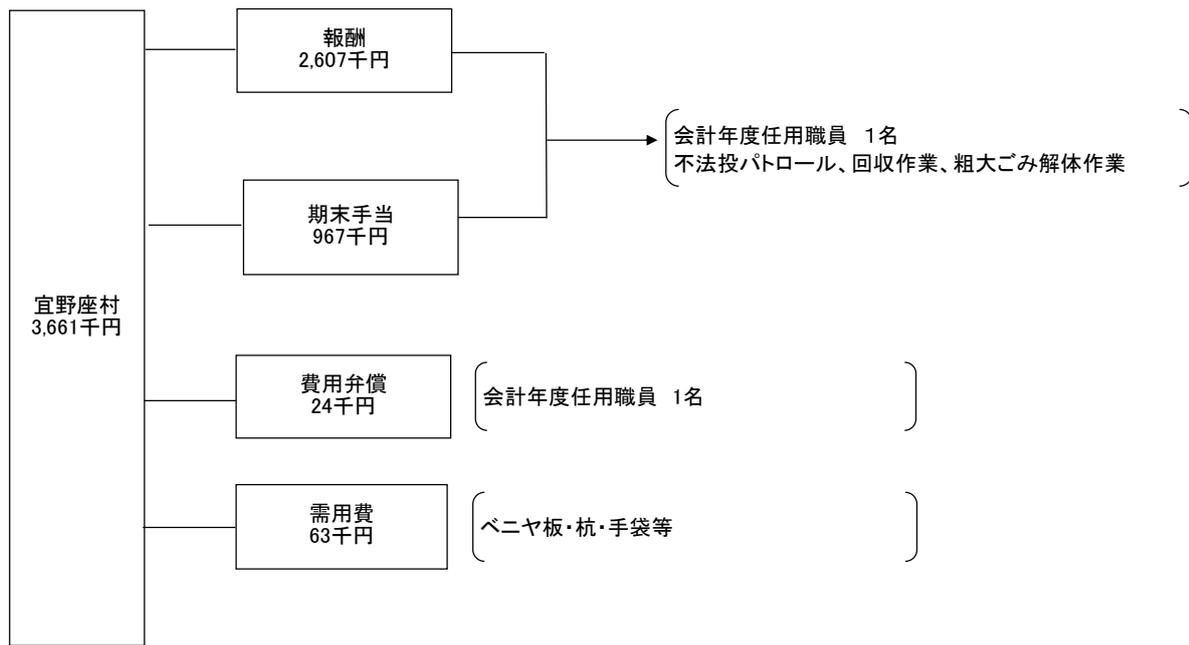
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>広大な自然環境を生かした着地型観光を推進する本村は、これまで自然景観を損ねる不法投棄物が多かったが、本事業の実施により、松田鍾乳洞等の観光地での不法投棄が令和2年度以降0件である。</p> <p>※令和4年度に、監視カメラが届かない場所への不法投棄対策として、ダミーカメラ、注意喚起の看板の設置、パトロールの回数を増やした。</p>	<p>従来のパトロールのルート変更や時間帯を変える等改善を検討し、さらなる不法投棄の抑制を図る。</p> <p>また、各区に配属している環境監視員をはじめ、区長や住民と連携を図り、不法投棄を見かけたらすぐに連絡するよう促し、村民全体で、不法投棄に対する意識啓発をおこなう。</p>

**今後の取り組み方針**

不法投棄パトロールのルート変更や時間帯を変動し、効率的に不法投棄を監視・抑制し、不法投棄の減少を図り、着地型観光の推進につなげる。また、村委嘱の環境監視員だけでなく、その他地域住民の協力を得て、村民みんなで不法投棄防止に対する意識を高めるよう連携を継続して図っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,683	3,661	2,928	733	22



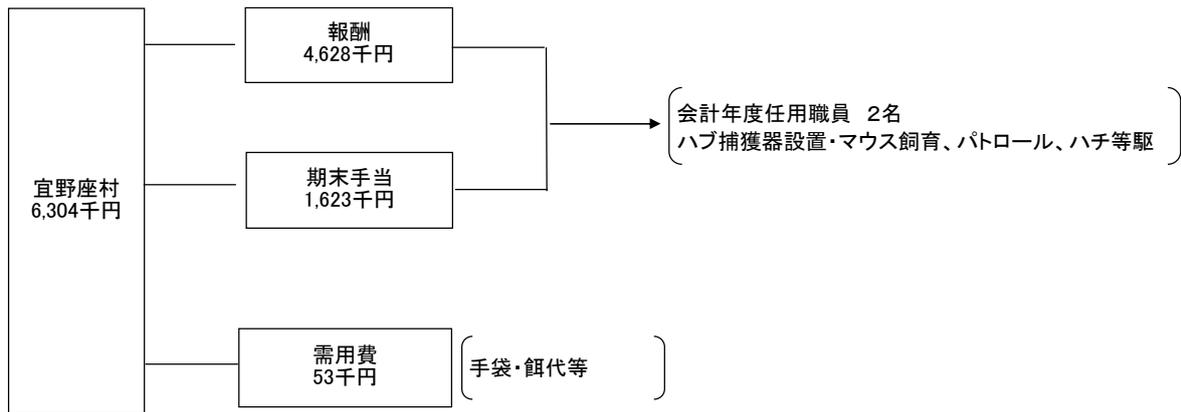
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・使途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	危険生物駆除捕獲事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア		
担当部署名	村民生活課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進			
事業内容	観光客や修学旅行生等の安全を確保することを目的とし、ハブやハチ等の咬傷事故等を未然に防ぐため、捕獲器の設置や観光地のパトロールを実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,277	4,512	4,491	4,605	5,651	
		(b)予算現額	4,217	4,512	4,445	4,434	6,304	
		(c)増減額(b-a)	▲60	0	▲46	▲171	653	
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	4,217	4,512	4,445	4,434	6,304	
	B.執行済額		4,217	4,488	4,445	4,434	6,304	
	うち交付金充当額		3,373	3,590	3,556	3,547	5,043	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		執行率は100%であり、当初計画していた事業内容を適切に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	観光地パトロールの実施	目標	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )	( 12回/月 )		
		実績	12回/月	12回/月	12回/月	12回/月		
	ハブ捕獲器設置	目標	( 150箇所 )	( 150箇所 )	( 150箇所 )	( 150箇所 )		
		実績	119箇所設置	112箇所設置	101箇所設置	107箇所設置		
	ハチ等の捕獲・駆除体制の整備	目標	捕獲・駆除0件 ( 専門員2人の配置 )	捕獲・駆除0件 ( 専門員2人の配置 )	捕獲・駆除0件 ( 専門員2人の配置 )	捕獲・駆除0件 ( 専門員2人の配置 )		
実績		捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置	捕獲・駆除0件 専門員2人の配置			
達成状況説明	・観光地パトロールを1年間、月12回実施し、目標を達成した。またパトロールと合わせてハチ等がないか確認を行った。 ・村境界付近107箇所にハブ捕獲器を設置し、ハブ2匹、タイワンハブ2匹、ヒメハブ3匹、アカマタ4匹、タイワンスジオ1匹の捕獲・駆除を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
			目標	( )	( 0件 )	( 0件 )	( 0件 )	( )
	観光客及び住民のハブの咬傷被害件数:0件		実績		0件	0件	0件	
進捗状況説明	今年度も観光地付近において咬傷被害が0件であり、目標は達成となった。なお、観光地におけるハブ・ハチ等への苦情は0件であった。今後も観光客が安心して観光できる環境を継続していく。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>捕獲については、目撃情報を基に設置場所を移動したことにより、ハブ2匹、タイワンハブ2匹、ヒメハブ3匹、アカマタ4匹、タイワンスジオ1匹が捕獲された。</p> <p>捕獲場所においては、住宅地域、郊外関係なく捕獲されているが、重点的に対策しているエリア外での目撃や咬傷被害、捕獲情報が多々あるため、エリアを拡大して、観光地へのハブ等の危険生物が侵入するのを防ぐ必要がある。</p>	<p>公共工事や地域清掃などにより区画の整備が行われるとハブ等の目撃情報があるため、情報収集に努め、適宜パトロールや捕獲器設置エリアを見直し、効果的に捕獲・駆除ができるよう取り組む。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>今後も目撃情報を元にパトロールや捕獲器設置エリアを適宜見直し、効果的に捕獲し継続的に駆除することにより、拡散防止・人体被害を未然に防ぎ、観光客や修学旅行生の安心・安全確保につなげる。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,304	6,304	5,043	1,261	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・作業員は、村広報などにより応募し、村内の地形等を熟知している方を選定しており、妥当である。</p> <p>・予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表)により積算しており、適正な規模であったと考える。</p> <p>・費目・用途は事業目的に即しており、消耗品も必要最小限のもので、妥当であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

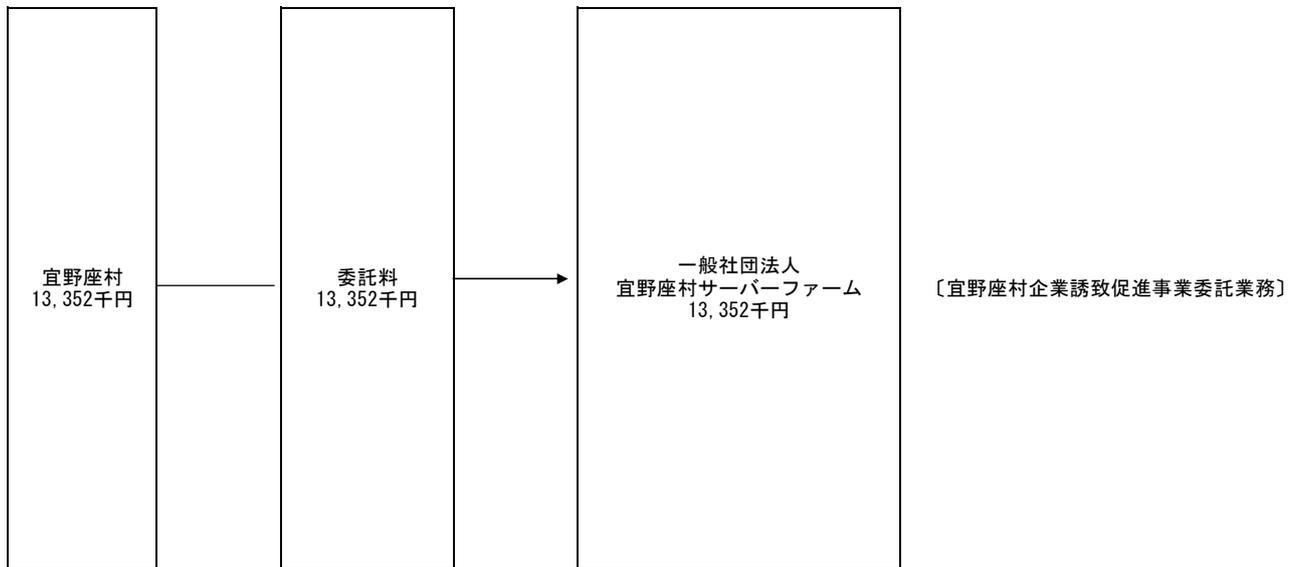
市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	宜野座村企業誘致推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(3)-イ		
担当部署名	企画課	事業実施(予定)年度	平成28年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な情報通信拠点施設の形成 Ⅲ-1-(2)		
事業内容	企業の誘致を図るため、県外ITイベントにおけるブース出展や情報系企業の招聘セミナーを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,795	13,519	14,014	14,014	15,015
		(b)予算現額	11,495	13,519	14,014	14,014	13,352
		(c)増減額(b-a)	▲3,300	0	0	0	▲1,663
		(d)繰越額	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	11,495	13,519	14,014	14,014	13,352
	B.執行済額		11,495	13,519	14,014	14,014	13,352
	うち交付金充当額		9,196	10,815	11,211	11,211	10,681
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		令和6年度においては、企業誘致担当職員の退職があり、12月補正、3月補正で人件費分1,663千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)	達成状況					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	招聘セミナー及びワーケーションの実施	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	県内外のITイベントへの企業誘致PRブースの出展	目標	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	
実績		実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外からIT関連企業を対象として、令和6年8月と11月に本村へ招聘セミナー及び課題解決ツアーを実施した結果、13社14名を本村へ招聘することができた。</li> <li>令和6年4月は沖縄県と共同にて「JapanITWeek春」、5月は東京で開催された「企業立地フェア2024」に単独出展を行った。また、7月には地域課題解決イベントとして東京都内にて単独イベントを開催しました。各イベントにおいて、宜野座村のPRや事業進出へ向けた意見交換を行った。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	招聘セミナー及びワーケーションの参加者数	目標	( )	( 10社/20名 )	( 10社/20名 )	( 10社/20名 )	( )
		実績		11社/15名	11社/16名	13社/14名	
	県内外のITイベントへの企業誘致PRブースの来場者数	目標	( )	( 200名 )	( 250名 )	( 200名 )	( )
		実績		502名	282名	292名	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>招聘セミナーに関して、令和6年度は参加者より意見交換を図るため2回に分けて計画し、第1回で3社4名、第2回は東京単独イベントと併せて開催し10社10名、合計13社14名の参加があった。参加人数こそ目標に届かなかったが、参加社数としては目標を達成した。</li> <li>今回は企業立地フェアへ出展し51名、JapanITweek春へ沖縄県ブースへ出展し241名に施設PRを行った。</li> </ul>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招聘セミナー参加者は14名と目標に届かなかったが13社参加があり、施設及び村のPRが図れた。今年度は、より細かなPRができるよう招聘セミナーの複数開催や東京での単独イベント開催、企業訪問や視察対応を積極的に行い、令和6年度全体で4社入居となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村へ進出企業獲得に向けて更なる誘致・PR活動を実施する。</li> <li>・地域課題解決をテーマに誘致を進め、企業の事業進出、地域の雇用創出を図る。</li> <li>・進出企業が求めるオフィス規模・社員数・住環境を意見交換し継続的な連携強化する。</li> </ul>

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業による接触企業に対するフォローアップ営業を強化する。</li> <li>・コワーキングスペース利用促進のPRを行い、スモールスタートにより企業誘致を行う。</li> <li>・働き方改革によるワーケーション推進に力を入れ、豊かな自然を活かしたアクティビティなど本村の強みをアピールし、時代の流れに沿った戦略的な企業誘致に取り組む。</li> </ul>

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
13,352	13,352	10,681	2,671	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、本事業の目的を達成するために、委託事業者との随意契約は妥当であったと考えている。</li> <li>・予算規模については、人件費、旅費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表や旅費規程内であるため妥当であるとする。</li> <li>・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか、額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-ア	
	担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成29年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進	
事業内容	宜野座村出身者海外移住者子弟4名を招聘し、3ヶ月間の研修を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	平成29年度	平成30年度	R1年度	R5年度	R6年度	
		(a)当初予算額	5,998	6,548	5,997	6,389	8,556
	(b)予算現額	5,998	6,548	5,997	7,791	8,556	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	1,402	0	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	5,998	6,548	5,997	7,791	8,556	
	B.執行済額	5197	5346	4,758	7,284	7,755	
	うち交付金充当額	4157	4277	3,806	5,827	6,204	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	86.6%	81.6%	79.3%	93.5%	90.6%	
予算の状況の説明	概ね事業計画通り予算を執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			平成30年度	R1年度	R5年度	R6年度	
	海外移住者子弟を研修生として受入れ、日本語や沖縄の伝統芸能などの習得及び村民や県民との交流を通して、双方の発展や国際交流、友好親善に繋げる。(子弟4名・期間3ヵ月)		目標 (3ヵ月)	(3ヵ月)	(3ヵ月)	(3ヵ月)	
			実績 4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	4人(8月～10月)	
		目標 ( )	( )	( )	( )		
		実績					
達成状況説明	日本語講座、文化講座(8～10月)、琉舞研修(9～10月)を実施。また、研修期間中、研修生は村内保育所(園)をはじめ、村立小・中学校、青年会、地域のお年寄りとの交流を行ったことで、幅広い年齢層との親睦を深め人的ネットワークの構築と多様な交流の推進に努めた。海外に宜野座村人会が結成されているペルー、アルゼンチン、ブラジル、アメリカ合衆国ハワイ州の4カ国からそれぞれ1名の子弟研修生を受け入れ、日本語や沖縄の伝統芸能の習得及び村民との交流を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	平成30年度	R1年度	R5年度	目標値(年度)
	受入れた研修生が沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%以上)。また村人会へアンケート調査をすることにより、受入研修生の帰国後の活動状況を把握する。		目標 ( )	(80%)	(80%)	(80%)	( )
			実績	100%	100%	100%	
	【参考指標】報告書の作成		目標 ( )	(100%)	(100%)	(100%)	( )
		実績	100%	100%	100%		
進捗状況説明	受入れた研修生並びに各国宜野座村人会長へアンケートを行ったところ、全員から、沖縄の文化や歴史などにより興味を持つようになったとの回答があり、目標を達成した。						

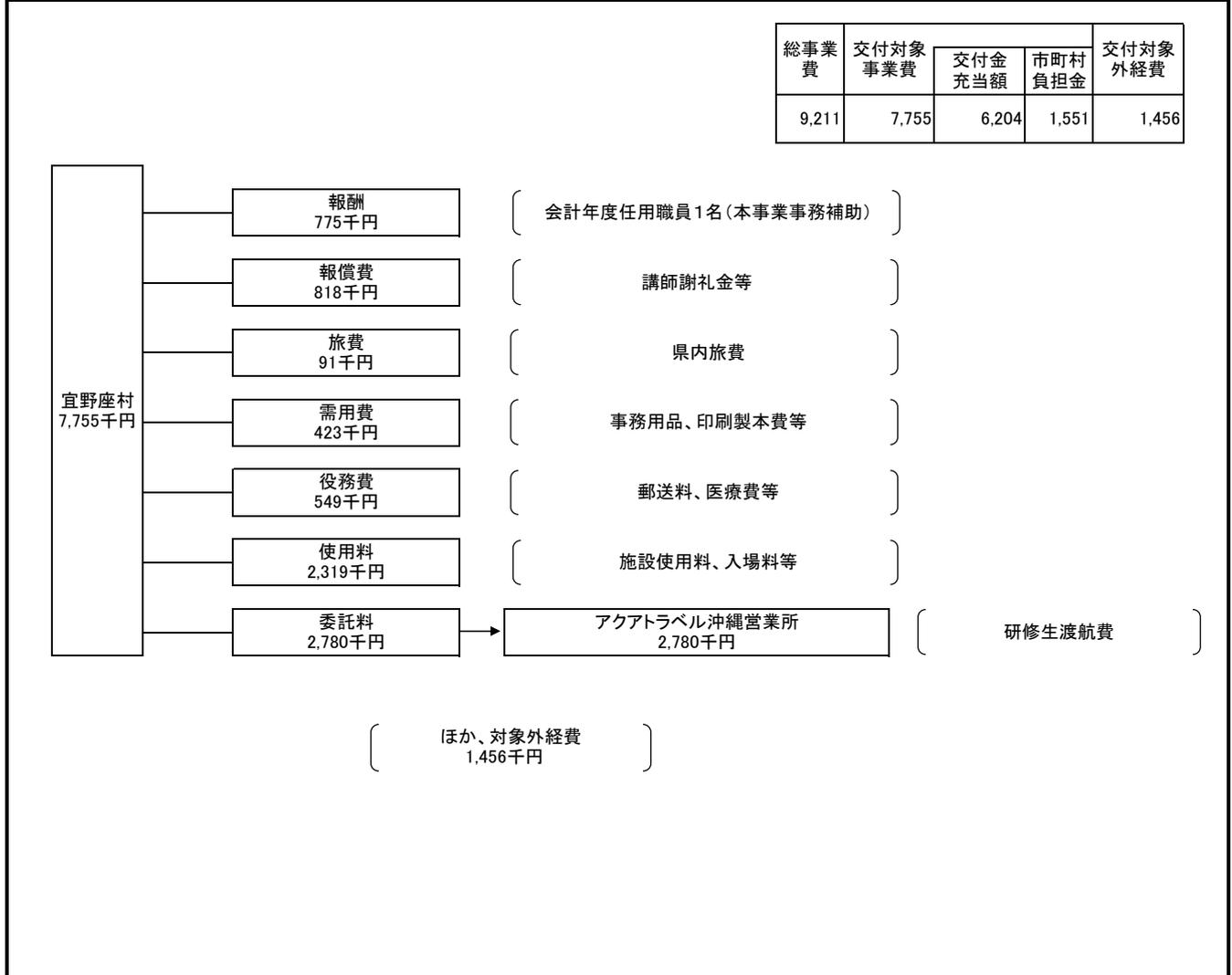
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(日本語能力) ・本事業は、実施36年目を迎え、各国村人会と村民との次世代交流が活発になってきているが、研修生として受け入れる子弟が3世～5世となり、交流のツールとなる日本語能力が課題となっている。	(日本語能力) ・研修生は、歴代研修生たちから基本的なあいさつやよく使う日本語のフレーズなどを事前に教授してもらうよう村人会に伝え、研修を迎えるまでの期間に語学習得に努めさせる。また、事業担当者としても研修生との会話を可能な限り日本できるように心がける。
	(身元引受人の確保) ・村内で研修生を受け入れる側の親戚(家族)の高齢化や他市町村への転出により、研修生の受入親戚(家族)の確保が困難になってきている。 ・令和6年度も、研修生の4人が親戚による身元引受が困難だったため、週末も平日同様の宿泊施設に滞在した。	(身元引受人の確保) ・身元引受人(受入親戚)の確保については、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。

**今後の取り組み方針**

(日本語能力)  
出国前に日常会話レベルの日本語が話せるよう研修生に学習させるとともに、今後とも村民との交流の場を積極的に設け、日本語講座で習得した語彙が定着できるよう促す。

(身元引受人の確保)  
・身元引受人(受入親戚)の確保が困難な場合は、民泊を行っている村民や青年国際交流員に対して協力を呼びかけ、ホームステイ形式ができるよう対応していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務の支出先については、旅券時価が著しく変動する事情を考慮し、競争入札ではなく、地方自治法施行令第167条2第1項第6号に基づく随意契約により選定をおこなっており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業を推進するうえで、妥当な規模であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である研修生にとって必要最低限の支出となっており、私的な費用については、本人負担としており、妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、目的に即し、必要なものだと判断した。

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	小中高キャリア教育支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ	
	担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	令和3年度～13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	若年者の活躍推進
事業内容	将来的な地域での雇用のミスマッチ解消や人材確保へつなげるため、村内小中高高校生へのキャリア教育や総合的な学習の支援を産学官が連携して行い、児童生徒の就業意識の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 (      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		(a) 当初予算額	6,014	5,760	5,806	7,019	
	(b) 予算現額	6,014	5,760	5,946	6,706		
	(c) 増減額(b-a)	0	0	140	▲ 313	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	6,014	5,760	5,946	6,706	0	
	B. 執行済額	5,233	5,606	5,861	5,819		
	うち交付金充当額	4,186	4,485	4,689	4,655		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	87.0%	97.3%	98.6%	86.8%	#DIV/0!	
予算の状況の説明	会計年度任用職員の病休や途中退職に伴い、人件費の減額補正を行った。また、病休2か月の人件費は対象外経費とした。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	村内3小1中1高へのキャリア教育及び総合的な学習への支援	目標	( 5校 )	( 5校 )	( 5校 )	( 5校 )	
		実績	5校	5校	5校	5校	
	グッジョブ連携協議会の開催	目標	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	
		実績	2回	2回	2回	2回	
	周知広報の取組 (SNSや村広報誌、事業報告パネル展の実施)	目標	( 6回 )	( 6回 )	( 6回 )	( 6回 )	
実績		7回	9回	25回	19回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内全ての小中高校において、キャリア教育及び総合的な学習への支援を行うことができた。</li> <li>・宜野座村グッジョブ連携協議会は2回開催することができ、協議会の目的や意識を共有し、産学官それぞれの立場から課題を共有することができた。</li> <li>・周知広報の取組は、保護者説明(2回)パネル展の実施(3回)、村広報誌掲載(2回)SNS発信(12回)など実施した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	対象校の児童生徒へ事前・事後アンケートを行い、「就業意識が高まったか(80%以上)」を含め、本事業の在り方を検証する	目標	(      )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(      )
		実績		85%	85%	83%	
	【参考指標】	目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績					
進捗状況説明	事業実施後アンケートを実施し、就業意識が向上したといえる項目で肯定的な意見が平均83%となり、目標の80%以上を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(周知広報) 周知広報の取組は保護者説明、パネル展の実施、村広報誌掲載、SNS発信等、計画通り実施できた。また、村産業まつりで初めてパネル展を開催し、より多くの人へ事業の周知を行った。引き続き、周知広報強化に取り組む必要がある。	(周知広報) 周知広報の取組は今後もさらに力を入れ、保護者の理解、地域からの協力者を増やせるよう継続して実施いく。
	(グッジョブ連携協議会) 協議会発足から7年が経過し、産学官連携体制が構築されてきている。多様化する社会や働く環境の変化に対応できる人材の育成が求められていることから、就業意識の向上に加えキャリア形成意識の向上も視野に、今後の取組みについて協議する必要がある。	(グッジョブ連携協議会) グッジョブ連携協議会では、今後の社会や学校、地域の変化を産学官で共通理解を図り、子ども達への多様な学習機会の創出について熟議を重ねる。
	(事業実施) 各学校事業のニーズや地域事業所からの課題や提案が多岐にわたるため、専門的な知識を有する講師が必要となる。	(事業実施) 事業所へアンケート調査等を行い、講師の開拓を行う。

**今後の取り組み方針**

(周知広報)  
これまでの保護者説明や村広報誌、パネル展の開催に加え、SNS等の活用に力を入れ周知広報に取り組む。

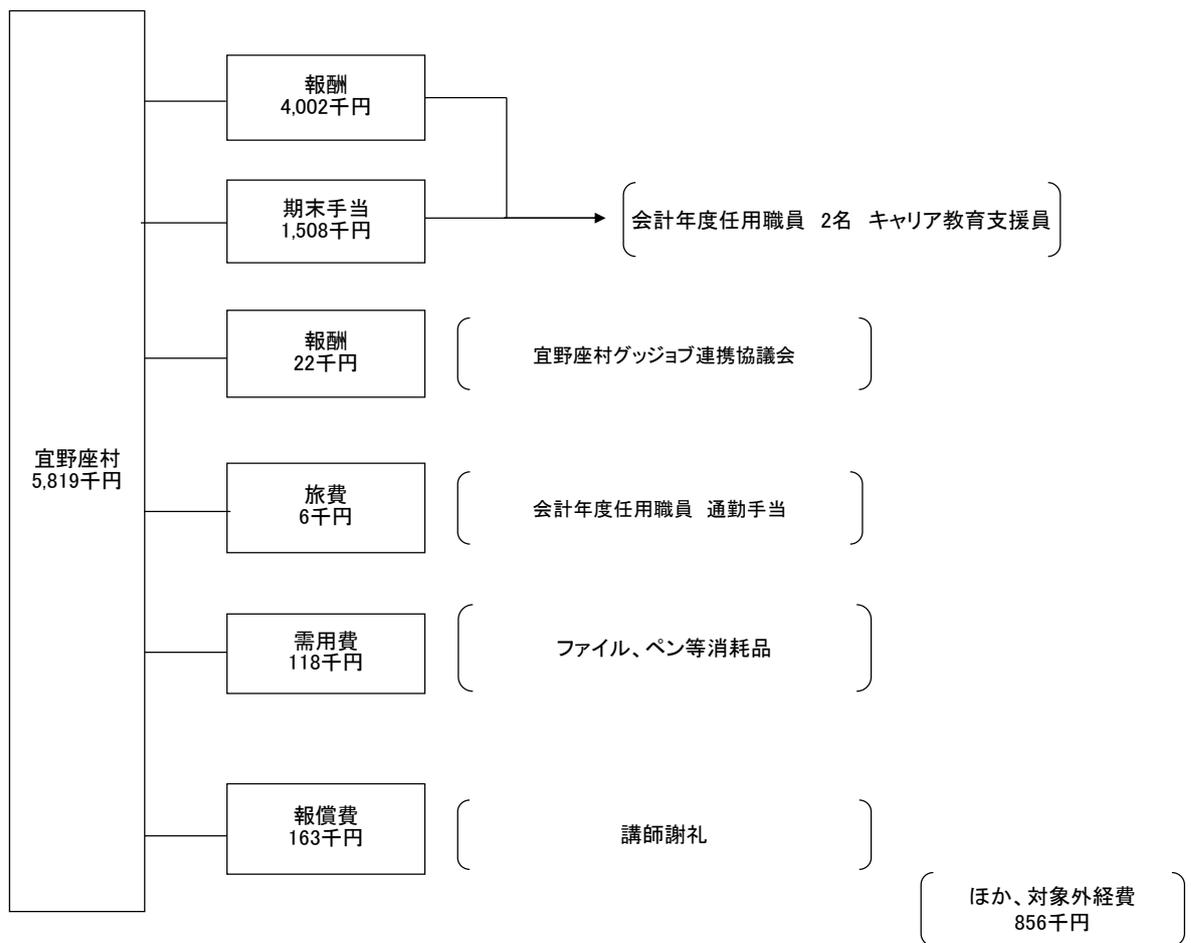
(グッジョブ連携協議会)  
計画通り協議会を開催し、協議会内で目的やそれぞれの役割を共有し、今後の取組についての熟議が円滑に行えるよう、協議会を運営していく。

(事業実施)  
村内事業所、村商工会、県のキャリアセンターや就業・労働相談センター等と連携し、学校や時代のニーズに合わせた講師の開拓を行う。

**資金の流れ**

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,675	5,819	4,655	1,164	856



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○キャリア教育支援員は、書類選考及び面接により選定しており、妥当であると考え。
	○		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、村の予算編成資料(会計年度任用職員報酬月額表等)により積算しており、適正な規模であったと考え。
	—		受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途は事業目的に即しており、必要最小限のもので妥当であったと考え。
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	宜野座村新しい地域公共交通導入検討事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4章-1-(1)-ウ	
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	令和5～9年度		沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進	
事業内容	地域住民より求められている新しい地域公共の導入に向けて、実証実験を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
		(a)当初予算額	26,784	43,086			
	(b)予算現額	26,784	23,244				
	(c)増減額(b-a)	0	▲19,842	0	0	0	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	26,784	23,244	0	0	0	
	B.執行済額	9,444	18,873				
	うち交付金充当額	7,555	15,098				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	35.3%	81.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	年度内に実績精算を行うため精算対象月を10月分としたこと、また燃料費の執行も当初見込みを下回ったことから、執行率が81.2%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	実証実験実施による調査等	目標	( 実証実験実施による調査等 )	( 実証実験実施による調査等 )	( )	( )	
		実績	社内にて利用者アンケートを実施	利用者の年齢層や利用動向等の分析			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド交通実証実験実施にあたり、デマンドバスシステム及び車両リースの業務、運行业務及び予約受付センターでの電話応対業務、コンサル業務の3つに分けて実施した。</li> <li>・コンサル業務(実証実験支援業務)において、利用者の年齢層や利用動向、課題等を分析した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(年度)
	交通弱者利用登録者累計230名以上	目標	( )	( 分析、評価及び課題を整理し、定量的な目標値を設定する )	( 登録者数230名以上 )	( )	( )
		実績		登録者数を目標値とした(R5:150名)	登録者数250名		
	【参考指標】登録者数	目標	( )	( 150 )	( )	( )	( )
		実績		117			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宜野座村デマンド交通実証実験業務(ぎ～のくんバス)について、村内の配布物冊子のページに記載したり、各地区総会や各地区老人会総会等において、利用登録ブースを設け、登録者増加に取り組んだ。また、民生委員の方にも利用が必要な方への周知や登録を行っていた。</li> </ul>					

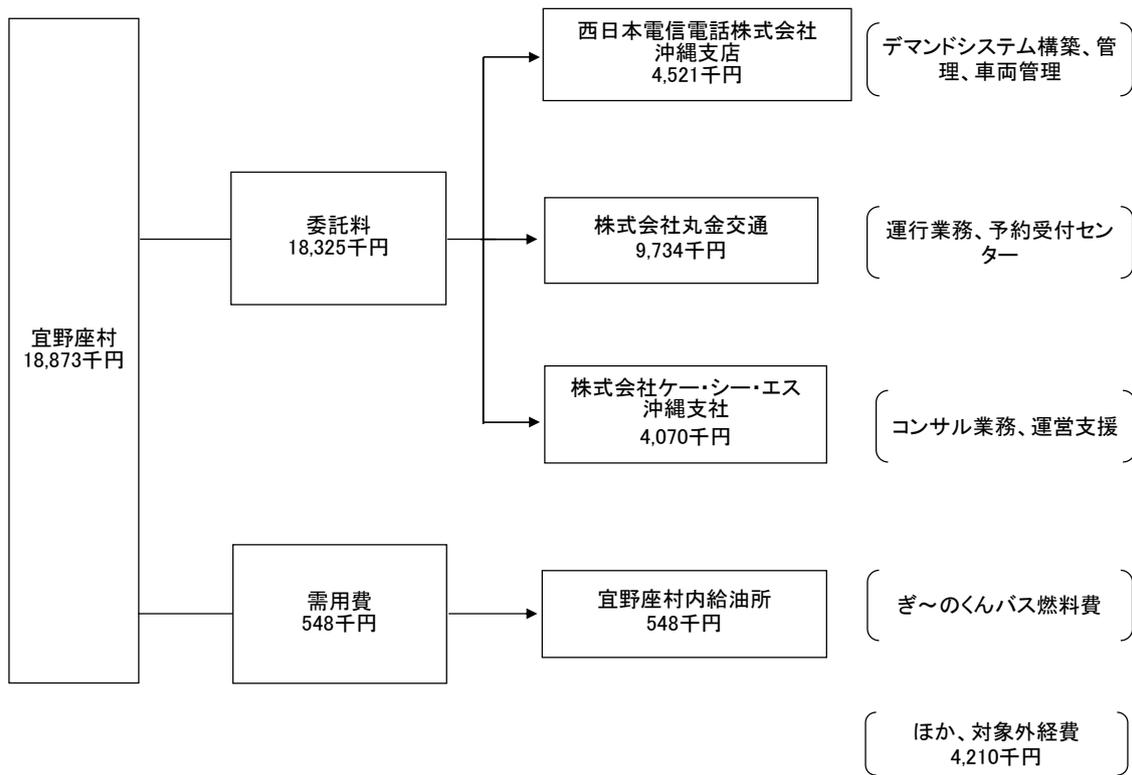
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用登録者の推移より約250名あたりで高止まりが予測されるが、登録者のうち実際に利用したことがある人は約44%である。よって、今後は登録者増の取り組みだけでなく利用促進に取り組み、社会実装に向けたより正確な利用者データの取得が課題である。</li> <li>・当該交通において、利用者より評価する声も聞こえるが、車両の増や村外への移動等の要望もある。当該案件については、様々な観点から運行形態を慎重に検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用登録者へ実際に利用するよう促す為、周知の方法において当該交通の利点等を全面的にアピールし、利用促進を図る。また、社会実装に向け、アンケート調査等で利用者の声や逆に利用しない人の意見も収集し、より良いデマンド交通の運行形態の構築に努める。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

引き続き、広報活動を積極的に行い、実利用者の増加を促すと共に、社会実装の検討に向け、実証実験分析業務を実施する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
23,083	18,873	15,098	3,775	4,210



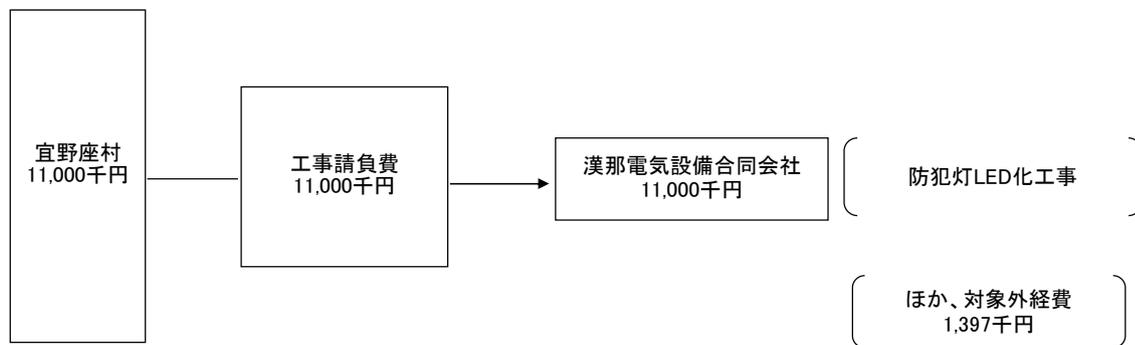
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業務の支出先については、指名競争入札、一般競争入札及び地方自治法施行令第167条2第1項第6号に基づく随意契約により選定をおこなっており妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模について、必要性を踏まえて所要額を算出したものの、精算時に燃料費の一部に不用が生じた。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	9-①	防犯灯脱炭素化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4章-1-(1)-ウ			
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	令和5～10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進 Ⅲ-11			
事業内容	村内全域の既設防犯灯をCO2排出量の少ないLED器具へ取り替え、環境負荷低減を図り、脱炭素化を推進する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	12,903	11,500				
		(b)予算現額	12,903	11,500				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	12,903	11,500	0	0	0	
	B.執行済額		18,017	11,000				
	うち交付金充当額		14,414	8,800				
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		139.6%	95.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		入札執行による予算残額はあるものの、執行率は95.7%であり、適切に執行された。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	惣慶区内(18台)の既設防犯灯をLED照明器具へ切り替える。		目標	( 45 )	( 18 )	( )	( )	
			実績	52	25			
			目標	( )	( )	( )	( )	
		実績						
達成状況説明	・目標では18基のLED化を予定していたが、LED化する既存器具の形状や種類により予算内で25基施工することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(年度)	
	(現況)年間CO2排出量 161,559t-CO2(脱炭素化後)年間CO2排出量 52,514t-CO2 ※LED化工事前と比較して、年間CO2排出量約6割削減 ※地区全体(228基)での排出量		目標	( ) ( )	LED化工事前と比較して、年間CO2排出量約6割削減	LED化工事前と比較して、年間CO2排出量約6割削減	( ) ( )	( ) ( )
			実績	/	約67.5%削減	約66.8%削減		/
	【参考指標】		目標	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )
			実績	/				/
進捗状況説明	25基施工した中、年間CO2排出量△11,175(t-CO2/年)((変更前16,718(t-CO2/年)→変更後5,543(t-CO2/年))、年間CO2排出量約66.8%削減となり、目標を達成した。 ※地区全体(228基)で年間CO2排出量約6割削減を目標としているところ、本年度施工分における削減率で評価。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>工事担当課、工事業者と密に行った工程会議により業務が円滑に進んだことが、目標達成の要因と考えられる。</p>	<p>引き続き、工事実施にあたって工事担当課、工事業者と調整を密に行い、業務が円滑に進むよう努める。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>引き続き、実施設計をもとに、段階的に各地区において計画的な取替えを行っていく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,397	11,000	8,800	2,200	1,397



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については設計段階で精査しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	